

(中間C)

評価分科会総合評価

研究課題名：メソスケールデータ同化とアンサンブル予報に関する研究

評価分科会（予報分野）

分科会長：田中正之

委員：岩崎俊樹、木村富士男、佐藤 薫、藤吉康志

評価年月日：平成24年1月13日

1. 総合評価

- (1) 継続の可否 ☒ 継続 ☐ 中止
(2) 修正の必要の有無 ☐ 修正の必要あり ☒ 修正の必要なし

2. 総合所見

災害防止の観点から、メソスケール現象の予報精度の向上を目指すデータ同化・アンサンブル予報の研究は極めて重要であり、それらを支える観測データの利用技術の高度化とともに社会的な意義は高い。また、観測グループと連携することで、新しい観測データの同化手法の開発にも取り組んでおり、メソスケールのための観測システムの設計にも有効である。GPS 視線遅延の同化については、我が国の気象特性から特に注目すべき分野と思われる。

研究計画はほぼ順調に進捗しており、中間目標は達成したと判断できる。研究成果も積極的に論文にまとめられており、十分な成果が出ていると判断できる。

今後は、CloudSAT やラピッドスキャンデータ、ドップラーライダーデータなど、最新の観測システムの同化を期待するとともに、気象庁外部の研究者の関心も高いことから、国内および海外の研究機関との連携も進めていくことを期待する。